

社会資本総合整備計画 事後評価

快適な生活を育むまち かしはら

令和5年10月

奈良県 橿原市

評価結果のまとめ

都道府県名	奈良県	市町村名	橿原市	計画期間	平成30年度～令和4年度	全体事業費	3,843,000 千円
計画名	快適な生活を育むまち かしはら						
計画目標	特色ある魅力的なまちづくりを実現し、将来にわたって快適で賑わい溢れるまちであり続けるため、下水道・公園・住環境等の都市基盤整備を進める。						

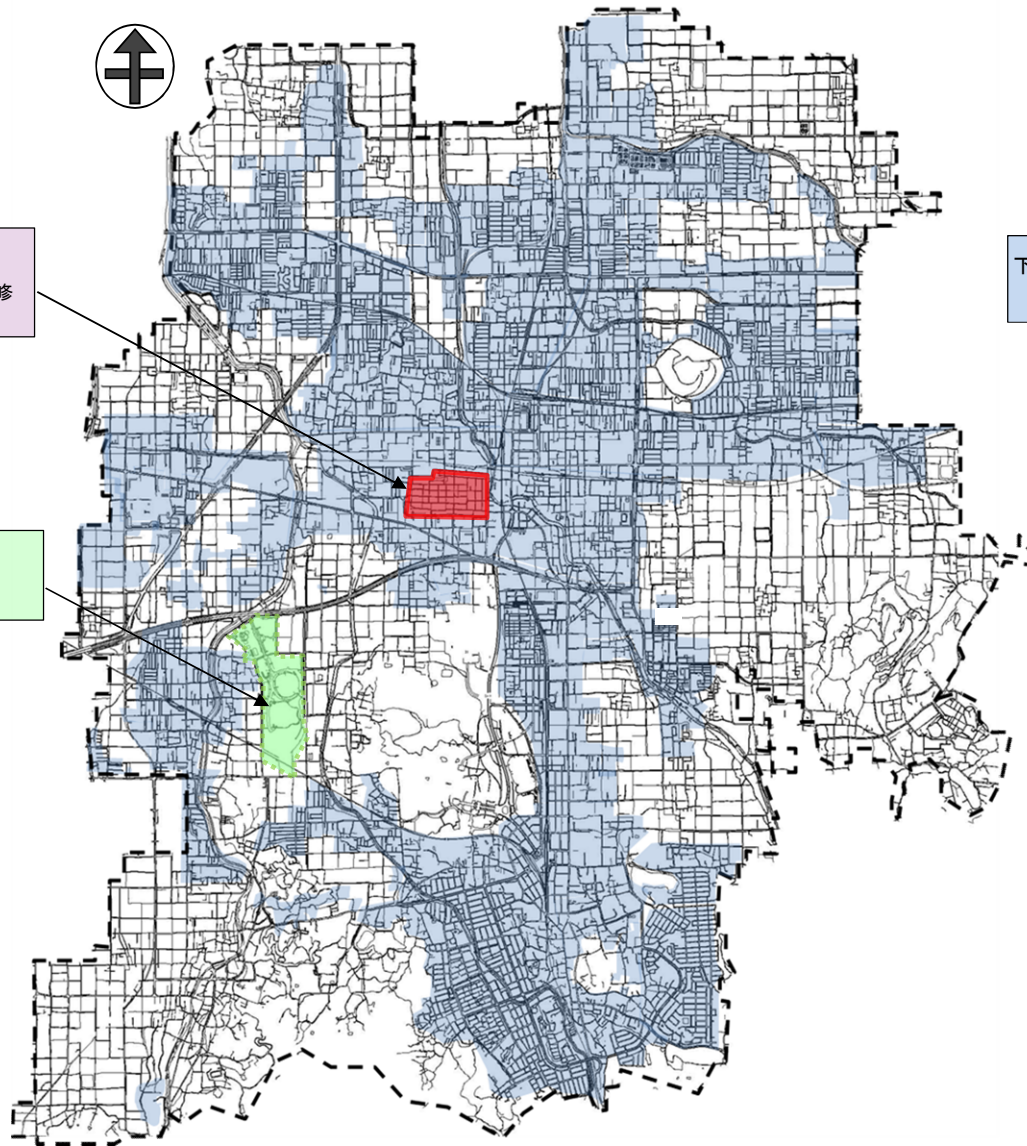
1)事業の実施状況	事業名	削除・追加した理由		削除・追加による指標等への影響	
		削除	重点計画へ移行したため	指標への影響無し	
1)事業の実施状況	A07-001 第2処理区 汚水管渠	削除	重点計画へ移行したため	指標への影響無し	
	A12-002 都市公園事業（橿原運動公園）				
	A16-003 今井町地区街なみ環境整備事業	削除	第3期奈良県地域住宅等整備計画に移行した	指標への影響無し	
	A16-004 今井町地区街なみ環境整備事業（修景）	削除	第3期奈良県地域住宅等整備計画に移行した	指標への影響無し	
関連社会資本整備事業					
効果促進事業	C07-001 生活排水クリーンアップ推進事業	削除	重点計画へ移行したため	指標への影響無し	
	当初	変更		—	

2)社会資本総合整備計画に記載した数値目標の達成状況	指標	単位	当初現況値	最終目標値	最終評価値	達成度※	達成見込みの有無		所見（効果発現要因等）
			H30当初	H34末	R4末		あり	なし	
指標1	橿原市の公共下水道（污水）の下水道処理人口普及率を77.7%（H30年度当初）から80.8%（H34年度末）に向上させる。	%	77.7%	80.8%	80.2%	×	●		中間目標値（R2末）の79.5%に対し、R2末の普及率は79.4%となっており、わずかに目標値に届かなかった。また、最終目標値（R4末）の80.8%に対しても0.6%足りなかった。これは、計画事業延長（3.0km/年）に対して実施延長が満たないためと考える。なお、今後の普及率の伸び率については現況の0.5%/年程度を維持していく計画となっており、目標値については数年以内に達成可能である。
指標2	橿原運動公園の有料施設の利用者数をH30当初現況値から12%（H34年度末）増加させる。	%	0%	12%	-9%	×	●		平成30年度の橿原運動公園有料施設利用者数は189,364人であった。令和4年度末には171,469人であった。目標値の12%増加に対して9%の減少となった。しかし、コロナ禍による活動自粛期間と重なりプールの休止を余儀なくされ運動公園の利用者は減少するなか、人工芝に改良を行い、照明設備等を設置した多目的グラウンドについては、改良前の利用者数が約1.5万人であったものが、改良後の令和4年度においては約8.8万人となり、withコロナとしてアウトドアの自然増を加味したとしても大幅に増加している。また、他の屋外施設の利用者数はコロナ禍を受けて減少しているが、多目的グラウンドについては利用者数の増加は顕著である。
指標3	今井町地区への来訪者数を3.2万人（H30年度当初）から4.0万人（H34年度末）に向上させる。	万人	3.2万人	4.0万人	1.6万人	×	●		令和4年度末の来訪者数は1.6万人と目標値を大きく下回った。要因としては、新型コロナウイルス感染拡大により地区内の各施設を一時休館したこと、また感染拡大防止のための外出自粛要請の影響が大きいと思われる。今後は目標値を達成できるよう、今井町の街なみ景観を維持し魅力的で賑わいのあるまちづくりを実現するとともに、観光政策にかかわる関係部署との連携を強化することで、来訪者の増加を図っていく。

※達成度 ○：評価値が目標値を達成、あるいは上回った場合 △：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合 ×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

3)定量的に表現できない定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道事業については、市民に対する講座内で実験を通して水質改善の理解を深めてもらうことができた。水環境に対する意識向上に寄与しており、効果は高い。 ・橿原運動公園については、多目的グラウンドが整備され、高規格の人工芝を導入したことにより、クッション性や水はけも良くなり利用者の満足度は向上した。 ・今井地区については、電線類地中化事業や自然色舗装整備を実施したことにより、飛躍的に街並み景観が向上した。また、街並み景観を保全するという観点から、老朽家屋等の改修に向け建物所有者に対し、地区の規制や補助制度等について説明する「働きかけ」を積極的にとおこなった結果、修景整備が実施され街並み景観の向上に繋がった。
------------------------	---

4) 地区の概要



下水道事業 ※H30～R2
A07-001 第2処理区 汚水管渠

下水道事業 ※H30～R2
C07-001 生活排水クリーンアップ推進事業

住環境整備事業
A16-003 今井町地区街なみ環境整備事業
A16-004 今井町地区街なみ環境整備事業(修景)

都市公園等事業
A12-002 都市公園事業
(権原運動公園)

凡 例		
行政区域界	
A07	下水道事業	
A12	都市公園事業	
A16	住環境整備事業	

5) 総合所見

・下水道処理人口普及率については、計画事業延長(3.0km/年)に対して実施延長が満たなかったため目標値にはわずかに届かなかった。経営戦略に則った事業費の中で可能な限り整備延長を伸ばしていくため、従来の工事手法をそのまま採用するのではなく、道路線形や道路勾配等の現場条件に応じた整備手法等を積極的に採用し、整備コストの削減に努めていく必要がある。
 ・権原運動公園の総合プールについてはコロナ禍により令和2年度より利用を休止している。施設が稼働しているテニスコートや野球場等スポーツ施設については利用者数は減少しているが、多目的グラウンドは整備後、約6倍の利用者数となっている。施設整備が計画目標の達成に貢献したと言える。人工芝に改良することにより利用者の大幅な確保に繋がった。
 ・今井町地区の来訪者数については、新型コロナウイルス感染拡大防止のための外出自粛要請の影響が大きく目標値を大きく下回った。一方で電線類地中化事業や自然色舗装整備、また老朽家屋等の修景整備を実施したことにより街並み景観が飛躍的に向上した。

6) 今後の方策

・下水道処理人口普及率については、大幅増が難しい状況の中でも、費用的・効率的な計画となるよう随時見直していくことにより、現況の伸び率を確保する。また、市民への下水道接続啓発活動に力を入れることにより水洗化率の向上も併せて目指し、それにより公共用水域の水質保全を図り、魅力的なまちづくりに寄与していく。
 ・権原運動公園は、昭和55年に多くの人々が集い、憩い、楽しめるスポーツレクリエーション活動の拠点施設整備として事業が開始された。事業着手から40年以上が経過した公園であり、今後は社会的ニーズの変化に対応した施設の導入や、老朽化した施設の改修、更新など公園全体の再整備を検討していく。また、権原運動公園内各施設の稼働率を高めるために多様なイベントを実施し集客性を上げていく。
 今井町は平成5年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されて以降、様々な事業や取り組みを実施し街並み景観の向上に努めてきた。今後も継続的に事業を実施することで街並み景観を維持し、魅力的で賑わいあるまちづくりを実現するとともに観光政策にかかる関係部署との連携を強化する。また、これらのことをSNS等により広く情報発信し周知することで来訪者の増加に繋げていく。

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	快適な生活を育むまち かしはら												
計画の期間	平成30年度 ~ 令和04年度 (5年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	檀原市												
計画の目標	特色ある魅力的なまちづくりを実現し、将来にわたって快適で賑わい溢れるまちであり続けるため、下水道・公園・住環境等の都市基盤整備を進める。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	3,843	A	3,841	B	0	C	2	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0.05	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H30当初)	中間目標値 (H32末)	最終目標値 (H34末)
1	檀原市の公共下水道(汚水)の下水道処理人口普及率を77.7%(H30年度当初)から80.8%(H34年度末)に向上させる。 第2処理区の下水道処理人口普及率(%) (処理区域内人口)/(総人口(住民基本台帳人口))×100(%)	78%	80%	81%
2	檀原運動公園の有料施設の利用者数をH30当初現況値から12%(H34年度末)増加させる。 檀原運動公園の有料施設の利用者数の増加率(%)	0%	6%	12%
3	今井町地区への来訪者数を3.2万人(H30年度当初)から4.0万人(H34年度末)に向上させる。 今井町への来訪者数(万人)	3万人	4万人	4万人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
定量的指標1	当初現況値: 77.7%、中間目標値: 79.5%、最終目標値: 80.8%													
定量的指標3	当初現況値: 3.2万人、中間目標値: 3.6万人、最終目標値: 4.0万人													

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名(事業箇所)	事業内容(延長・面積等)	市区町村名/港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	費用便益比	個別施設計画策定状況
												H30	H31	R02	R03	R04			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
下水道事業	A07-001	下水道	一般	橿原市	直接	橿原市	管渠(汚水)	新設	第2処理区 汚水管渠	汚水管 400mm ~ 200mm L 15km	橿原市						3,000	-	
												小計						3,000	
都市公園・緑地等事業	A12-002	公園	一般	橿原市	直接	橿原市	-	-	都市公園事業(橿原運動公園)	多目的広場等の設備整備	橿原市						768	-	
												小計						768	
住環境整備事業	A16-003	住宅	一般	橿原市	直接	市/個人	-	-	今井町地区街なみ環境整備事業	電線地中化等の整備 18.1ha	橿原市						63	-	
	A16-004	住宅	一般	橿原市	間接	個人	-	-	今井町地区街なみ環境整備事業(修景)	修景施設助成等 18.1ha	橿原市						10	-	
										小計							73		

C 効果促進事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H30	H31	R02	R03	R04			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
下水道事業	C07-001	下水道	一般	橿原市	直接	橿原市	-	-	生活排水クリーンアップ 推進事業	地域住民への水質保全に関する啓発運動	橿原市						2		-
下水道事業と一体的に実施。出前教室やイベント等を通じて、公共用水域の水質保全の必要性をPRし、下水道整備に対する住民の意識高揚を図る。																			
事業種別：計画調査（全体事業費は1.5百万円）																			
											小計						2		
											合計						2		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
<p>檀原市社会資本総合整備計画庁内評価委員会規定に基づき、檀原市社会資本総合整備計画庁内評価委員会を開催した。</p>	<p>令和5年10月</p>
	<p>公表の方法</p> <p>檀原市役所のホームページ</p>
事業効果の発現状況	
<p>定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道処理人口普及率については、計画事業延長(3.0km/年)に対して実施延長が満たなかったため目標値にはわずかに届かなかった。経営戦略に則った事業費の中で可能な限り整備延長を伸ばしていくため、従来の工事手法をそのまま採用するのではなく、道路線形や道路勾配等の現場条件に応じた整備手法等を積極的に採用し、整備コストの削減に努めていく必要がある。 ・檀原運動公園の総合プールについてはコロナ禍により令和2年度より利用を休止している。施設が稼働しているテニスコートや野球場等スポーツ施設については利用者数は減少しているが、多目的グラウンドは整備後、約6倍の利用者数となっている。施設整備が計画目標の達成に貢献したと言える。人工芝に改良することにより利用者の大幅な確保に繋がった。 ・今井町地区の来訪者数については、新型コロナウイルス感染拡大防止のための外出自粛要請の影響が大きく目標値を大きく下回った。一方で電線類地中化事業や自然色舗装整備、また老朽家屋等の修景整備を実施したことにより街並み景観が飛躍的に向上した。
<p>定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道事業については、市民に対する講座内で実験を通して水質改善の理解を深めてもらうことができた。水環境に対する意識向上に寄与しており、効果は高い。 ・檀原運動公園については、多目的グラウンドが整備され、高規格の人工芝を導入したことにより、クッション性や水はけも良くなり利用者の満足度は向上した。 ・今井地区については、電線類地中化事業や自然色舗装整備を実施したことにより、飛躍的に街並み景観が向上した。また、街並み景観を保全するという観点から、老朽家屋等の改修に向け建物所有者に対し、地区の規制や補助制度等について説明する「働きかけ」を積極的におこなった結果、修景整備が実施され街並み景観の向上に繋がった。
特記事項（今後の方針等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・下水道処理人口普及率については、大幅増が難しい状況の中でも、費用的・効率的な計画となるよう随時見直していくことにより、現況の伸び率を確保する。また、市民への下水道接続啓発活動に力を入れることにより水洗化率の向上も併せて目指し、それにより公共用水域の水質保全を図り、魅力的なまちづくりに寄与していく。 ・檀原運動公園は、昭和55年に多くの人々が集い、憩い、楽しめるスポーツレクリエーション活動の拠点施設整備として事業が開始された。事業着手から40年以上が経過した公園であり、今後は社会的ニーズの変化に対応した施設の導入や、老朽化した施設の改修、更新など公園全体の再整備を検討していく。また、檀原運動公園内各施設の稼働率を高めるために多様なイベントを実施し集客性を上げていく。 ・今井町は平成5年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されて以降、様々な事業や取り組みを実施し街並み景観の向上に努めてきた。今後も継続的に事業を実施することで街並み景観を維持し、魅力的で賑わいあるまちづくりを実現するとともに観光政策にかかる関係部署との連携を強化する。また、これらのことをSNS等により広く情報発信し周知することで来訪者の増加に繋げていく。 	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	81%	<p>檜原市の公共下水道（汚水）の下水道処理人口普及率を77.7%(H30年度当初)から80.8%(H34年度末)に向上させる。</p> <p>中間目標値(R2末)の79.5%に対し、R2末の普及率は79.4%となっており、わずかに目標値に届かなかった。また、最終目標値(R4末)の80.8%に対しても0.6%足りなかった。これは、計画事業延長(3.0km/年)に対して実施延長が満たないためと考える。なお、今後の普及率の伸び率については現況の0.5%/年程度を維持していく計画となっており、目標値については数年以内に達成可能である。</p>
	最終実績値	80%	
2	最終目標値	12%	<p>檜原運動公園の有料施設の利用者数をH30当初現況値から12%(H34年度末)増加させる。</p> <p>平成30年度の檜原運動公園有料施設利用者数は189,364人であった。令和4年度末には171,469人であった。目標値の12%増加に対して9%の減少となった。しかし、コロナ禍による活動自粛期間と重なりプールの休止を余儀なくされ運動公園の利用者は減少するなか、人工芝に改良を行い、照明設備等を設置した多目的グラウンドについては、改良前の利用者数が約1.5万人であったものが、改良後の令和4年度においては約8.8万人となり、withコロナとしてアウトドアの自然増を加味したとしても大幅に増加している。また、他の屋外施設の利用者数はコロナ禍を受けて減少しているが、多目的グラウンドについては利用者数の増加は顕著である。</p>
	最終実績値	-9%	
3	最終目標値	4万人	<p>今井町地区への来訪者数を3.2万人(H30年度当初)から4.0万人(H34年度末)に向上させる。</p> <p>令和4年度末の来訪者数は1.6万人と目標値を大きく下回った。要因としては、新型コロナウイルス感染拡大により地区内の各施設を一時休館したこと、また感染拡大防止のための外出自粛要請の影響が大きいと思われる。今後は目標値を達成できるよう、今井町の街なみ景観を維持し魅力的で賑わいのあるまちづくりを実現するとともに、観光政策にかかる関係部署との連携を強化することで、来訪者の増加を図っていく。</p>
	最終実績値	2万人	